

2023年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2024年 4月 30日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 外国語学部 准教授

(氏名) 渡邊 真理香

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	セクシュアル・マイノリティの社会的包摂の課題研究 —台湾「同志」運動から考える					
	合計	使用内訳 (単位: 円)				
交付決定額	599,480	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
執行額	599,480	0	42,701	62,100	68,170	426,509
執行残額	0					
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	
	外国語学部・教授		北 美幸		アメリカ史・アメリカ研究。読書会/映画鑑賞会 ロジスティクス。	
	外国語学部・准教授		鳥谷 まゆみ		中国語圏文学研究。「同志」関連書籍収集。フィールドワークのロジスティクス。	

研究分野: 歴史研究、比較文化研究、比較文学研究、セクシュアリティ研究

キーワード: セクシュアル・マイノリティ、台湾、同性婚、ダイバーシティ、インクルージョン

研究成果の概要 (和文)

本研究課題では、台湾の同性婚法制化やLGBTQ+ムーブメントに関する学術的・社会的な理解を深めるための一連のイベントとフィールドワークを実施した。研究者一同とイベント参加者は異文化間の理解を深め、台湾におけるLGBTの権利獲得の過程や文化的背景についての知識を得た。また、LGBTQ+コミュニティの声を聞き、その連帯を強化することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1) 学術的意義

- ①セクシュアル・マイノリティの包摂と歴史の理解の促進：台湾の同性婚法制化を通じて、アジアにおけるセクシュアル・マイノリティの包摂とその歴史を探求することで、学術的な理解が深まった。従来のアメリカ中心の視点に加え、アジアの文化や社会における同性愛者の権利獲得の歴史を理解することができた。
- ②異文化間の比較研究の促進：アジアの文化や社会と西洋の文化や社会との比較研究を通じて、異なる地域や文化背景におけるセクシュアル・マイノリティの権利獲得の過程を理解し、異文化間の共通点や相違点を知ることができた。
- ③学術的な議論と理論の発展：本研究により得られた知見は、セクシュアル・マイノリティの権利獲得に関する学術的な議論や理論の発展に貢献する。特に、台湾の同性婚法制化が異文化間でどのように位置付けられるか、またそれが同性愛者の権利獲得にどのように影響を与えるかについての理論的な洞察が期待される。

(2) 社会的意義

- ①LGBTQ+の権利意識の向上：研究成果が広く社会に還元されることで、LGBTQ+の権利に対する意識が高まる。特に、同性婚法制化の背景や過程が明らかにされることで、社会全体での理解が深まるだろう。
- ②偏見と差別の減少：研究が社会的に広く知られることで、同性愛者に対する偏見や差別が減少し、より包括的で寛容な社会の実現に寄与する。
- ③政策への影響：同性婚法制化の成功事例やその影響が明らかになることで、他の国や地域の政策決定に影響を与える可能性がある。

1. 研究の背景

2019年5月24日、台湾では18歳以上の同性間の婚姻関係を保障する特別法が制定され、即時施行された。同法によりアジア初となる同性婚の法制化が実現し、2022年8月現在で8000組以上の同性カップルが結婚している。台湾では2004年の性別平等教育法により性指向による差別禁止が明文化されて以来、相対的に性別を問わない／性別による差別を許さない社会になっていた。そのことが、婚姻における最後の性差別である異性婚主義を打ち破ることにつながったといえる。

研究代表者および共同研究者はこれまで、アメリカ文学、中国近現代文学およびアメリカ史の立場からセクシュアル・マイノリティの表象や歴史・社会制度について研究してきた。特に研究代表者および共同研究者Aは、授業および学長選考型研究Aによる学生支援として、「アメリカの同性婚事情」の特別講義やトークイベントを、2020年度以来、毎学期実施するとともに、日本での同性婚の実現を求める「結婚の自由をすべての人に」九州訴訟公判の傍聴に学生を引率・指導し、同性婚に特化した教育・研究もおこなってきた。

2. 研究の目的

現在、世界的には 30 カ国以上が同性婚を認めているが、アジアで唯一同性婚を認め「婚姻の平等」を保証している台湾から、セクシュアル・マイノリティの包摂およびその実現にいたる歴史について我々が学ぶことは多い。1990 年代以降、中国語圏では「同志」がセクシュアル・マイノリティを指す用語として定着しているが、本研究は、台湾「同志」運動に目を向けることで、これまで主にアメリカ合衆国に着目してきた研究にアジアの視点を加えて厚みを増すことを目的とした。

3. 研究の方法

文献的学習、映画鑑賞会・講演会（主催）による学習、フィールドワーク等。具体的には「4. 研究成果」の通り。

4. 研究成果

(1) 映画鑑賞会「アン・リー監督『ウェディング・バンケット』で同性婚法制化以前の台湾的価値観を学ぼう」

日時：2023 年 6 月 22 日（木）12:30～14:30

場所：北九州市立大学北方キャンパス本館 D-504 教室

内容：日・米・台湾の LGBT 事情について学生参加型のイベントとして、参加者は映画を通じて台湾の価値観や社会の変遷について深く理解を深めた。

(2) 劉靈均氏講演会「インターナショナルは「同志（われら）」のもの——台湾の LGBT 文芸と社会運動から見た国際的連帯」

日時：2023 年 6 月 24 日（土）13:00～14:30

場所：北九州市立大学北方キャンパス本館 D-504 教室

講師：劉靈均氏（明治大学・相模女子大学非常勤講師）

内容：台湾の同性婚事情や LGBTムーブメント、そして「同志」文学について学ぶことができるイベントで、一般市民も積極的に参加した。

(3) フィールドワーク

日時：2023 年 10 月 27 日（金）～30 日（月）

場所：台北市（台湾）

内容：フィールドワークでは、台湾の LGBT プライド・パレードへの参加観察や主催団体関係者への聞き取り調査を行った。また、台南の「同志」文学の資料館も訪問し、台湾の LGBT 運動や文学に関する貴重な情報を収集した（鳥谷、10 月 25 日[水]～26 日[木]）。